



主要著作一覧

●単著

- 『子どもと大人の心の架け橋——心理療法の原則と過程』（金剛出版・1995）⇒新訂増補（2009）
- 『子どもの心に出会うとき——心理臨床の背景と技法』（金剛出版・1996）⇒新訂増補（2020）
- 『よみがえる親と子——不登校児とともに』（岩波書店・1996）
- 『子どもと家族への援助——心理療法の実践と応用』（金剛出版・1997）
- 『心理療法のかんどころ——心傷ついた人々の傍らにあって』（金剛出版・1998）
- 『柔らかなところ、静かな想い——心理臨床を支えるもの』（創元社・2000）
- 『子どもと家族への統合的心理療法』（金剛出版・2001）
- 『統合的心理療法の考え方——心理療法の基礎となるもの』（金剛出版・2003）
- 『小さな贈り物——傷ついたところにより添って』（創元社・2004）
- 『聴覚障害者への統合的アプローチ——コミュニケーションの糸口を求めて』（日本評論社・2005）
- 『心理臨床という営み——生きるということと病むということ』（分担執筆／滝川一廣・青木省三 編・金剛出版・2006）
- 『心理療法と生活事象——クライアントを支えるということ』（金剛出版・2008）
- 『統合的心理療法の事例研究——村瀬嘉代子主要著作精読』（出典著者／新保幸洋 編著・金剛出版・2012）
- 『児童生活臨床と社会的養護——児童自立支援施設で生活すること』（分担執筆／田中康雄 編・金剛出版・2012）
- 『心理療法家の気づきと想像——生活を視野に入れた心理臨床』（金剛出版・2015）
- 『ジェネラリストとしての心理臨床家——クライアントと大切な事実をどう分かち合うか？』（金剛出版・2018）
- 『心理療法の基本——日常臨床のための提言』（青木省三との共著・金剛出版・2000）⇒完全版（2014）
- 『子どものこころに寄り添う営み』（慶應義塾大学出版会・2019）
- 『クライアントの側からみた心理臨床——治療者と患者は、大切な事実をどう分かちあうか』（金剛出版・2023）

『心理支援と生活を支える視点——クライアントの人としての存在を受けとめるために』（金剛出版・2024）

●編著

- 『心理臨床の実践——つなぐこと、支えること、さまざまな工夫、共に育つ』（誠信書房・1990）
- 『臨床心理学と〈生きる〉ということ』（村瀬孝雄との共編・日本評論社・1997）
- 『聴覚障害者の心理臨床』（日本評論社・1999）
- 『すべてをこころの糧に——心理援助者のあり方とクライアントの現実生活』（青木省三との共編・金剛出版・2004）
- 『ロジャーズ——クライアント中心療法の現在』（村瀬孝雄との共編・日本評論社・2004）⇒全訂（2015）
- 『電話相談の考え方とその実践』（津川律子との共編・金剛出版・2005）
- 『老いを生きる、老いに学ぶところ』（黒川由紀子との共編・創元社・2005）
- 『詳解 子どもと思春期の精神医学』（中根晃・牛島定信との共編・金剛出版・2008）
- 『聴覚障害者の心理臨床 2』（河崎佳子との共編・日本評論社・2008）
- 『統合的心理援助への道 真の統合のための六つの対話』（金剛出版・2010）
- 『対人援助者の条件——クライアントを支えていくということ』（傳田健三との共編・金剛出版・2011）
- 『発達障害支援必携ガイドブック——問題の柔軟な理解と的確な支援のために』（下山晴彦との共編・金剛出版・2013）
- 『必携 発達障害支援ハンドブック』（下山晴彦・森岡正芳との共編・金剛出版・2016）
- 『今、心理職に求められていること——医療と福祉の現場から』（下山晴彦との共編・誠信書房・2010）
- 『臨床心理学スタンダードテキスト』（共編・金剛出版・2023）
- ### ●翻訳
- 『愛はすべてではない』（ブルーノ・ベッテルハイム／村瀬孝雄との共訳・誠信書房・1968）